

## 北極データアーカイブシステム (ADS) による北極域雪氷圏変動の衛星観測 Satellite observation of cryospheric change using Arctic Data archive System (ADS)

アリマス ヌアスムグリ<sup>1\*</sup>; 榎本 浩之<sup>1</sup>; 矢吹 裕伯<sup>3</sup>; 杉村 剛<sup>1</sup>; 亀田 貴雄<sup>2</sup>

ALIMASI, Nuerasimuguli<sup>1\*</sup>; ENOMOTO, Hiroyuki<sup>1</sup>; YABUKI, Hironori<sup>3</sup>; SUGIMURA, Takeshi<sup>1</sup>; KAMEDA, Takao<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 国立極地研究所, <sup>2</sup> 北見工業大学, <sup>3</sup> 海洋研究開発機構

<sup>1</sup>National Institute of Polar Research, <sup>2</sup>Kitami Institute of Technology, <sup>3</sup>JAMSTEC

GRENE 北極気候変動研究プロジェクトでは、北極域のデータアーカイブシステム (Arctic Data archive System : ADS) が整備されている。ADS は衛星データの可視化機能を備えている。北極圏の海氷減少は環境の変化のみならず、沿岸地域の産業や居住環境にも影響を与えている。ADS では 1978 年からの衛星マイクロ波観測データとして SMMR, SSM/I, AMSR, AMSR-E, AMSR2 のデータを収納している。これらのデータにより 35 年以上の北極の積雪域や海氷域の長期変動の解析が可能である。データ全天候性で、極夜の期間でも観測可能である。この発表では、ADS を使って各地の衛星マイクロ波データをサンプリングし、雪氷域の長期変動についてまとめる。

キーワード: 北極, 雪氷圏, 衛星, データアーカイブ

Keywords: Arctic, Cryosphere, Satellite, Data archive